



第149号

福島大学
人間発達文化学類
同窓吾峰会 会報

同窓吾峰会長

峯 島 和 彦

身体と健康について

先頃この二年間に福島県内で実施された特定検診（血圧・血糖値・中性脂肪・HDLなど）の結果が公表されましたが、福島県の健康指標を見ると生活習慣病を引き起こす要因となるメタボリック症候群の割合が全国平均より悪い指数になっていました。このメタボリック症候群にならないようにとフィットネスジムに通って運動をする人が増えていますが、若い人達だけでなく高齢者も定期的に運動をすることの効果が最近改めて見直されています。

す。高齢者のうちは認知症や血管の疾患など死に至るリスクが高まるので、芸術文化活動（ダンスや楽器の演奏、歌う等）などを積極的にやることで予防効果があると言われている。また運動をして骨に力が増えると、骨（骨芽細胞）からメッセージ物質（オステオカルシン）というタンパク質が出て脳に運ばれると同時に各臓器にも運ばれます。この物質は身体各部の免疫力を高める働きを持ち、身体の免疫細胞の量を増やして身体の若々しさを保つという重要な役割を果たしています。またこの物質は脳の記憶力の低下を防ぐ働きも併せ持っているのが大変都合です。骨を丈夫にするバランスの取れた食事は必要ですが、骨に力を与える運動を続けること

はもっと大切です。大人になつてから帯状疱疹に罹患したという話を聞きますが、これは疲労が蓄積し免疫力が低下した時などに起きる症状で、普段から身体

の免疫力を高めておくことがいかに大切かを感じます。年を重ねるにつれて私達の身体はどこかに異常が見られることがあります。その一つに全身の関節や腱・筋（すじ）などに違和感が現れ、やがて耐え難い痛みが出る場合があります。病院で診察を受けて治療すればある程度解決可能ですが、身体を動かす観点から日常生活の中身を一度見直す必要があると思います。私は退職した頃から高血圧症の薬を飲んでいますが、医師からはまず運動することをお勧めされました。膝の痛みも出たので診てもらおうと膝関節の軟骨がすり減って

いる（変形性膝関節症）とのことでした。痛みを取るには膝上の筋肉（大腿四頭筋）を鍛えるしかないと言われ、週一〜二回フィットネスジムに通うことになりました。有酸素運動（自転車こぎやジョギングなど）と併せて筋トレをしないと効果が出ないと言われましたが、その後膝の痛みは出ていません。前述のメッセージ物質の働きを考えると、改めて運動を継続する大切さを感じています。器械を使った筋トレは自分の体力に合せて重さ（負荷）や回数を調節すれば十分効果が見込めます。またテレビやラジオの体操番組は解説通りにしっかりと行うとかなりの負荷がかかります。効果があるそうです。毎日ではなくても自分に合った運動を通して会員の皆様の健康の維持・増進を図られま

すよう願っております。

本学類では、県教育委員会との連携を図りながら業務を推進しています。その中で、教員不足が喫緊の課題であることが分かっています。

最後に、福島県の未来を拓く子供たちのために、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和四年一月の文部科学省の調査で、本県教員の不足人数は、小学校五十一人、中学校二十二人となくなっています。そのため、県教育委員会、各市町村教育委員会では、その解決に向けて様々な施策を行っています。

本学類でも、教職の魅力について講座や教育実習等で学生が学ぶとともに、教員採用試験のための勉強会を支援し、教員の育成に努力をしています。しかし、

学校を取り巻く環境の厳しさ等から、教員志望の学生数が年々減少し、現在の教員不足につながっています。本学類では、この問題を少しでも解消するために、吾峰会会員の皆様にご協力をお願いすることを考え、今回の会報「吾峰」掲載に至りました。

具体的には、皆様のお知り合いに、「教員免許状の取得者で、講師として勤務されていない方」をご存じであれば、その方に意向を伺った上で、教育事務所等に連絡して頂ければと願っております。

本県の「教師不足」解消にお力を！！

福島大学人間発達文化学類
学類長 初澤敏生

学校を取り巻く環境の厳しさ等から、教員志望の学生数が年々減少し、現在の教員不足につながっています。本学類では、この問題を少しでも解消するために、吾峰会会員の皆様にご協力をお願いすることを考え、今回の会報「吾峰」掲載に至りました。

具体的には、皆様のお知り合いに、「教員免許状の取得者で、講師として勤務されていない方」をご存じであれば、その方に意向を伺った上で、教育事務所等に連絡して頂ければと願っております。



監査風景

2

支部長バトンタッチ
村上田村支部長模写作品

3



お名前…只見高校 伊藤校長

12



あれから12年目 震災遺構

16

二〇二二年度(コロナ禍終息せず) 吾峰会評議員会書面議決で

今年度もコロナ禍は終息の見通しが立たない状況下で、対面での評議員会は中止された。やむなく書面での議決となった。

《主な事業計画》

- ・同窓吾峰会会津若松大会
令和四年十月十五日(土)
- ・会津若松ワシントンホテル
- ・監査会
令和四年四月十四日(木)
- ・福島大学街なかブランチ
舟場第一研修室
- ・役員選考委員会
令和五年三月十七日(金)
- ・街なかブランチ舟場
○会報「吾峰」発行
一四九号
令和四年八月一日
- ・一五〇号
令和五年二月十日
(年一回発行)
- ・研究奨励事業募集
支部事務局締切
令和四年九月二十日(火)
- ・本部事務局締切
令和四年九月三十日(金)
- 入会歓迎人間発達文化学
類卒業祝賀会
令和五年三月二十五日
(土)

令和三年度の会計監査会

去る四月十四日に監査会が実施された。

松坂知代子・大堀満広両監事が長時間にわたり慎重に厳しく監査された。

一般会計については我彦会計部長、積立金は関口積立金管理運営委員長、組織強化費は山寺組織部長、慶弔費は梅津事務員が中心となり説明を行った。

いずれの決算についても、相違ないことが認められた。



松坂・大堀両監事

監事からご意見として、本会の課題を踏まえて、特に積立金の扱いについて検

組織強化を考える

事務局長 野崎修司

今年度こそは事業を計画通りに実施したいと思っていました。感染拡大の兆候があり、残念ながら評議員会は中止に至りました。先日、会津支部との打合せがあり、課題を乗り越え取り組む姿に、改めて大会の実現を強く願いました。

今年度の課題を二点に絞って申し上げます。

一点目は、各支部の抱える課題です。①支部会員の高齢化②学校会員の減少です。①はなかなか解決できない問題ではありませんが、②が解決の糸口になる事を



監査風景

討していつて欲しいとの発言があった。

最後に関場事務局次長の進行で峯島会長の謝辞があり閉会された。

コロナ禍での会計

会計部長 我彦武

同窓吾峰会(本部)の会計についてお知らせ致しました。そこで、本会の積立金管理運営委員会とも協議し、同窓会の運営の充実と目的遂行のために、明確な内規を作成して執行に当たることが必要ではないかと思いました。今後、事務局で内規を作成し、理事会等でも検討をお願いして、次年度から施行できるように進めていきたいと考えています。引き続きコロナ禍での会計運営となりますが、ご理解の程よろしくお願い致します。

(昭五一卒 福島支部)

期待しております。

②の原因は、大学改革にあります。進路選択が「教員以外へ」が可能になり、結果的に、教員就職数は令和三年で八十二名でした。福島県への就職数はそれ以下となります。激減です。

その現状を踏まえ、総務部会では「教職以外の卒業生の組織化」を模索しています。例えば、市や県に勤務されている卒業生に対する働きかけです。市役所や県庁内に、教育学部や人間発達文化学類卒業生の組織が有ります。その方々との連携も、先の課題解決に繋がると考えます。また、組織部では市職経験者を役員に迎え、組織強化を模索しております。

二点目は名簿刊行です。令和六年十二月の会員名簿刊行に向けて、今年度から組織強化委員会が動き出しました。詳細が決まり次第、各支部へ順次ご連絡致します。会員の皆様からの情報提供、会員同士の声かけも組織強化に繋がりますので、ご協力の程宜しくお願いいたします。

(昭四八卒 福島支部)

この積立金に関しては、監査会の折に、積立金の使途について明確にしておくべきとの提案をいただきました。そこで、本会の積立金管理運営委員会とも協議し、同窓会の運営の充実と目的遂行のために、明確な内規を作成して執行に当たることが必要ではないかと思いました。今後、事務局で内規を作成し、理事会等でも検討をお願いして、次年度から施行できるように進めていきたいと考えています。引き続きコロナ禍での会計運営となりますが、ご理解の程よろしくお願い致します。

(昭五一卒 福島支部)

訂正とお詫び

前号(148号)に間違いがありましたので、以下のように訂正します。

- P⑩6段目 「辻堂啓子」⇒「込堂啓子」
- P⑨上段左 「我彦キミ子」⇒「我彦ミキ子」

大変ご迷惑をおかけしました。心からお詫び申し上げます。今後は、十分注意をしながら編集してまいります。

支部長のバトンタッチ!!

この十一年

田村支部長
村上 和寛

震災の年に退職し十一年が過ぎました。私事になりますが、この十一年間は今まで体験しなかったことを体験した中身の濃い年月でした。

原発事故後はショックで自分の目で見る風景がすべてかすんで見えました。そして震災後の家の修理、その後、除染のモニタリングの仕事をし、父母、義父母を送り、親しい友人との別れ、子供たちの結婚と五人

支部長バトンタッチ

前田村支部長
三輪 幹治

私は、三年前まで田村支部長をさせて頂きました。

この二年間はコロナ禍で、役員の皆さんはご苦労されていることと推察いたします。私は平穏な時期に次の役員の方々にバトンタッチができ、ありがたく思っております。

さて、私は吾峰会と長く関わらせて頂きました。最初は昭和の後半、三十代の中堅教員の時期に三春小学

の孫の誕生、自分の入院、兄弟の入院、今まで関わってこなかった組長や行政区長等地域の仕事、そして今はコロナ禍での生活と、世の中をめまぐるしい変化の日々が続いています。

私だけでなく、世の中の急激な変化を感じている方も多いと思います。そんな中で吾峰会の田村支部長をお引き受けることになりました。少しでもお役に立てればと思います。

区長の仕事が終わわり、少し余裕ができ、昨年から家の片付けを始めました。外の小屋を取り壊し、家の周

校に勤務しており、吾峰会事務局員として諸々なことに関わらせて頂きました。当時は、田村地区の教員の多くが吾峰会員であり、とても活気がありました。

田村地区総会の時は、三春小学校の吾峰会員だけでなく地区内の多くの会員の参加がありました。私も事務局で、受付や集金、懇親会時の先輩方への接待をさせて頂いたことが懐かしく思い出されます。このような、懇親の中から多くの有意義な教えや情報を得ることができたと感じています。

りの片付けを始め、物置の片付けでは古い物、いらない物はだいたいぶ棄てました。風通しが良くなり善い空気が流れるようになった気がします。

物置の自分の絵の整理をしていると、若い頃に模写したフェルメールの「婦人と召使」*が見つかりました。どこへいったかわからないままでしたので、懐かしく、うれしく思いました。少し余裕ができたらし手を加えたいと考えています。

この十一年間をふりかえって私事を書いてみました。*P①に作品写真で紹介

記憶を記録に

—HP(ホームページ)委員会より—

委員長 川崎 康宏

吾峰会創立百二十周年記念事業の一つとして開設されたホームページ(HP)は、平成十九年二月から本格的に稼働しました。本年度十五周年を迎えます。この間、母校の学部再編や大学院設置、そして記憶に生々しい東日本大震災等、記憶と記録にしっかりと残すべき事案が沢山ありました。

本年度は「吾峰会のあゆみ」に特化し、東日本大震災後に残された記録によって明らかにしたことなど

れた状況ではなくなり、さみしい思いをしております。

今後、会の運営も難しい状況が続くと予想されますが、後輩の皆様には、ぜひ吾峰会の発展のためご努力頂きますようお願い申し上げます。(昭四七卒)

福島支部長バトンタッチ!

令和四年度から福島支部長が野崎修司氏(本部事務局長)から渋谷 朗氏(昭四九卒)にバトンタッチしました。

同窓吾峰会のホームページを開こう!!

P①⑤⑨⑫⑯の枠外にあるアドレスからHPを開いてみましょう。「福島大学同窓吾峰会」で検索しても開くことができます。

- ・会長あいさつ
- ・事務局だより
- ・吾峰会の概要
- ・吾峰会のあゆみ
- ・母校の変遷
- ・本部の事業
- ・吾峰会決算・予算
- ・同窓吾峰会役員
- ・各支部だより
- ・吾峰会会則
- ・校歌、学生歌、寮歌
- ・事務用紙ダウンロード
- ・会報「吾峰」

*会報「吾峰」は、118号から見られます。

を含め、記憶に留めるべき事実内容や事実と向き合った役員苦難・苦慮が窺える記述を追記します。大震災後から令和までの記録をHPにアップします。

HPは、情報伝達のツールの一つで、メディア(媒体)です。新聞や雑誌の紙であり、テレビ・ラジオの電波に当たります。重要なことは「存在する」ことではなく、「常に新しい発信がある」こと、見聞きする受信者にとって興味・関心が湧き、ニーズに応える新鮮

な情報が含まれることです。「吾峰会HP」の意義は、勿論、吾峰会の活動の記録であり、吾峰会が歩んできた記憶としての軸です。記録すべきことを淡々と記録し、HPにアップすることで様々な情報を共有し、同窓としての共感を呼び起こすことができるよう、内容を検討し改善してまいります。

残念ながら記述のない年があります。怠惰な会の運営に終始していたのではなく、特記すべき内容がない平坦な一年であったことを物語っていますのでご理解ください。

「記憶を記録に」がHP委員会の合い言葉です。(昭五二卒 福島支部)

今、学校現場では…

子ども達の学びのため 今できることを

福島県小学校長会
福島市立福島第一小学校長

横山 貴英



「子どもの感染拡大防止重点対策」期間中、多くの小学校で運動会が予定されていきました。実施に際しては、各校とも悩みながらの判断でした。

昨年度は、感染に対する警戒が強く、参観人数制限、応援や歌等発声の中止、競技種目の縮小・見直し等多くの制限を行いました。このことに苦情はありませんでした。本年度も感染高止まりの状況にあり「感染者が出たら／学級閉鎖となったら」と、危機感をもって協議を重ねました。しかし、制限だけではなく、今までわかってきた効果的な防止策の知識や経

験を生かし、対面を避け、マスク着用での応援合戦や歌を復活、軍手やリングバトンの活用、目印を付けた間隔確保等教職員で知恵を出し合っていることに挑戦しました。そして、運動会当日、片付けを終え、集まった保護者の中から自然に拍手が広がるという場面に遭遇しました。この状況下でも懸命に走り、生き生きと演技し、応援合う子ども達の姿を目にすることができた喜びとともに、労をいとわず「できること」に取組んだ先生方に対する感謝を込めた拍手だったのではないかと思っています。

限ったことではなく、全ての学校、全ての教育活動で行われていることです。一方で、コロナ禍が学校にもたらしたものは、困難だけでしょうか。GIGAスクール事業によるタブレットの一人一台の整備やオンライン授業の実施等ICT環境整備が一気に整いつつあります。授業でのデジタル教材の活用はじめ、オンラインによる遠隔授業にも有効利用される事例もあります。もちろん教職員の活用研修や情報モラル教育の推進が必要であり、教職員の負担感等それに伴う課題はあるものの、教育の可能性が広がったことは事実です。また、人との交流の在り方に制限がかかったことで、その必要性や意義、効果的な在り方を再認識できる機会にもなりました。困難と思われた「主体的・対話的で深い学び」も意義や在り方を考え、状況に応じた授業実践にも取組み始めています。



題であり学校の挑戦はこれからも続きます。「予測困難な変化の激しい未来」に向け、教育の改革が求められている時だからこそ、課題山積であった子どもたちの未来のため、学校は前を向いて進んでいくことが大切な使命であると思います。学校は今日も頑張っています。どうか、吾峰会の皆様には、今後も引き続きご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願いしたいと思います。

(昭六二卒 福島支部)

地域の学校として

相馬市立日立木小学校

校長 青田 伸一

川と田畑と緑があふれる相馬市日立木地区。その中に、地域のシンボルとしてあるのが、幼稚園併設の日立木小学校です。令和四年度は、園児・児童合わせて百名でスタートしております。

日立木幼稚園・小学校と言えば「こいのぼり」と言うくらい、入園・入学式やこどもの日、運動会の時期に、毎年こいのぼりが何十匹も校庭を泳ぎます。地域では有名な風物詩であり、伝統行事となっています。

こうしたこいのぼりに見守られながら、子どもたちは、相馬市の小・中学校全体で取り組んでいる基礎的読解力(リーディングスキル)を身に付けたり、ICTスキルを高めたりし、学力向上に努めております。また、二宮尊徳の四つの訓えが根付く相馬市ですので「至誠」「勤労」「分度」「推譲」を大切にすることを学んだら、自分の思いをもち、積極的に伝え合うことにも意欲的に取り組んだりもしています。

このような取組が安心しでできるのも、保護者や地域の応援や励まし、協力、そして包容力があってこそと感じます。PTA奉仕作業や国道六号線沿いにある花壇の整備ボランティアなどを行ってみると、保護者や地域の方がたくさん集まり、和やかに取り組まれています。新型コロナウイルス感染症の影響さえなければ、公民館主催の三世代交流運動会も予定されていたはずです。



こうした地域のあたたかさ、これまでの東日本大震災、令和元年の台風十九号、その二週間後の大雨による洪水災害の際にも力を発揮してきたことが容易に

中学校では今!!

福島地区中学校長会会長
福島市立信陵中学校長

目黒 満



中学校では今、働き方改革の本丸と位置付けられている部活動改革のスタートラインにあります。六月六日には、スポーツ庁が地域移行に関する検討会議提言を取りまとめ、令和五年度からの三年間を「改革集中期間」と位置づけました。学校部活動を段階的に地域移行してゆくその手始めは、休日の部活動の地域移行となっています。

また、部活動も含めた教員の労働環境の過酷さばかりが注目され、教員採用試験の応募者数減少も続いています。教員という仕事の

魅力ややりがい、将来、教師を目指す子どもたちに伝えていければと思います。日々、笑顔で前向きに協働しているところです。

さて、学校では、丸二年以上、コロナによる影響が続いています。そんな中でも中学校では、中止・縮小・リモート開催等、本来の形では実施できなかった各種の教育活動や行事を、感染予防を徹底しながら工夫して実施しているところとします。挑戦の日々が続いています。

この二年間、四月の修学旅行は延期や行き先の変更だけでなく、日程の縮小、あるいは中止となつてしまった学校もありました。今年度、本校では、コロナ対応レベル2の厳しい状況ではありましたが、予定通りの二泊三日の日程で、関東方面での修学旅行を実施しました。公共交通機関を利用する班活動は、計画の段階から実施困難と判断し、感染予防を徹底した形でのキャリア学習や体験的な学習を工夫し実施しました。

六月の中体連選手激励会



6月の中体連選手激励会

も、この二年間はリモート開催でしたが、今年度は全校生が体育館に集って開催しました。応援団の力強い演舞と声で、ユニフォーム姿の選手を目の前にして、精一杯応援することができました。本校応援団の伝統である信陵ウェーブも復活させることができ、全校生五〇三名が応援団の校旗の動きに合わせて、心を一つにして大波のように躍動する姿が体育館の海いっばいに広がりました。

コロナ禍を経験する中で、私たち現場では、教育活動の価値をこれまでとは違った視点から見つめ直し、新たな学校の在り方について改めて考えることができたと考えます。今、求められている令和の日本型学校教育では、従前のような「みんなと同じことができる」「言われたことを言われたとおりにできる」人材

の育成などは求めています。これからのSociety5.0を自立性と創造性を武器に力強く生き抜いていく子どもを育てることができる学校教育が求められているものと考えます。

もともと、学校で展開される授業には一つの正解はありません。教師一人ひとりの個性が生かされており、子どもたちにとってよいものを追い求めていくこと自体が学校の課題となっています。私たち教員は、これまでも先んじて自ら課題をみつめて取り組む探求型の学習を実践してきたとも言えます。

これからも前向きに子どもたちの未来を見据え、ともに、今と向き合いながらしなやかに学校の歩みを進めていきたいと思います。

(昭六〇卒 福島支部)

原稿の添え状

吾峰会会長 峯島和彦様
同広報部長 平野哲哉様
大変お世話になっております。五月二十日付けにて依頼いただきました原稿をお送りいたします。

今、学校ではコロナ禍と同時に、学習指導要領改訂に伴う新たな学びの創造やギガスクール構想による一人一台タブレット、働き方・

▼前頁より

想像できるほどです。また、令和三年と四年に起きた福島県沖地震。園舎や校舎だけでなく、ひび割れや崩れ箇所、陥没箇所が多数あったり、断水が続いたりしました。しかし、行政からの支援をはじめ、地域から見舞いの声をたくさんいただいたり、園や学校からの急な対応連絡に全面的にご協力をいただいたりし、励まされてまいりました。

今後このような相馬市日立木地区の良さを継承するとともに、生かしていく学校経営を行い、子どもた



ちを育ててまいります。
(平八卒 相馬支部)

会報「吾峰」一五〇号に寄せる
150
文字の想い

広報を読むと、離れたこの地でも皆様のご活躍ぶりが見られ、感じられて、どんなに励みになったことでしょうか。毎日の家事に追われ、時々ばやきたくなりますが、考えようによっては、身体を動かして好きな事ができるのは、何とぜいたくで幸せなことでしょう。人生の終活期、今の身体を維持するよう進んでいるんな事に挑戦しているように思っています。

令和四年六月十四日
福島市立信陵中学校
目黒 満

(昭四〇卒 匿名希望)

今、教育行政に携わって

教育委員会が進めるキャリア教育

棚倉町教育委員会

教育長 荒川 文雄

私の勤務する棚倉町教育委員会は、持続可能な地域社会の創り手を育成するために、町ぐるみでキャリア教育を推進しております。その概要を紹介いたします。

キャリア教育とは

キャリア教育は、現行学習指導要領で小学校から実施することが明示され、実践が義務化されました。

「学ぶ」と自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科の特質に応じて実施する教育活動です。

大切なポイントは、「つながり」「資質・能力」「特別活動を要とする」の三点です。

資質・能力の育成

社会的・職業的自立に必要な資質・能力とは、特別な力ではなく、今まで育成してきた「生きる力」であり、学習指導要領に示されてい

る力であります。

教育委員会では、キャリア教育で育てる資質・能力を明確にして、各学校での実践をお願いしています。各学校では、児童生徒の

実態から、育成したい資質・能力を設定し、発達段階に合わせて具体化・重点化し、児童生徒に意識させ、学校教育全体を通して育成するのです。

資質・能力が身についた児童生徒の姿は、キャリアパスポートや通知表の所見などで、教師間、本人、保護者や地域の方々と共有され、最終的には指導要録の所見に記入されます。

今の学びを将来につなぐ

簡単に言えば、児童に「聞く力が伸びたね。」と称賛するだけでなく、「聞く力が伸びたね。この

力は、将来役に立つよ。」のように、将来につながるよう働きかける教育です。

今学んでいることが将来役に立つと考えている子どもたちの割合が、国際比較すると、かなり下位に位置

する現状もあります。持続可能な地域社会のために、夢と志を持って将来のために学び続ける子どもの育成を目指しています。

そのためには、保育園から高等学校までをつないで、夢と志を見つけ、「自分で決める」ことを大切にしています。異校種をつなぐ教育は、教育委員会が積極的に推進すべきであると考えております。

特別活動を要とする

「自分で決める」ためには、生活や学習の目標を立てたり、振り返ったりすることが必要です。

自分で決め、努力し、振り返り、達成感を味わうことで、肯定感や有用感が高まり、新たな目標が生まれます。

それらの活動は、特別活動の学級活動で行われます。それが「要とする」ということです。

その際には、カウンセリ

教育委員会の役割

学校づくりは町づくりです。これらの教育活動を一貫して行うためには、学校の自主性を尊重しつつ、教育行政の果たす役割が重要であると感じております。

(昭五四卒 東白川支部)

特別寄稿

異なる視点から見つめる

福島大学人間発達文化学類

准教授 鳴川 哲也



私は、平成二十八年四月から六年間、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官として、小学校理科の学習指導要領の改訂、趣旨の周知等の仕事に携わらせていただきました。そしてこの四月から、福島大学で仕事をさせていただいております。

「予測困難な時代」に、子ども一人一人が未来の創り手となるよう、「生きる力」の理念の具体化が検討され、学習指導要領には、育成を目指す資質・能力が三つの柱で整理され、示されました。しかし、令和二年四月、いよいよ小学校学習指導要領が全面実施される

とき、世の中は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、学校が一斉休校している状態でした。まさに「予測困難な状況」でのスタートでした。その後も、感染防止をしながらの教育活動、GIGAスクール構想による一人一台端末の整備等、学校現場も大変な毎日が続いています。

そのような中、私は小学校理科の中心に教育を見つめる日々を送ることになったわけですが、いつもの片隅には「福島県の教育」のことがありました。私は、福島県の公立小学校の教員として採用され、理科教育に情熱を注ぐ先生方と共に研修をさせていただき、小学校理科についての「観」を創り上げることができました。ですから、福島

の理科の仲間には、とても感謝しておりますし、仲間がもっと増えることを常に願っています。

このような私が、教科調査官という仕事の中で、自分自身の成長を感じることができた多くの場面を振り返りますと、ある共通点が見えてきました。

それは、「自分がつまみ視点とは異なる視点から見つめる」ということです。

が、他教科等の「見方・考え方」を理解しようとすることで、「理科の見方・考え方」の重要性を改めて感じました。

また、理科は従来「問題解決」を重視しています。学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力の一つとして、「問題発見・解決能力」が示されています。他教科等での学び方を考えることによって、理科との共通点や相違点が明らかに、理科における問題解決の在り方が鮮明になりました。全国各地の先生方との交流でも、小学校理科についての「観」の交流を行い、大変勉強させていただきました。

福島県は面積が広く、地域の実態も大きく異なります。東日本大震災、原子力災害によって、解決すべき教育に関する課題も山積しています。

このような実態だからこそ、「自分がつまみ視点とは異なる視点」から教育について見つめることができるのではないのでしょうか。

「福島ならではの」教育を進めることは、我々自身の学びそのものなのだと思うのです。

(平三卒 福島支部)

研究奨励事業

令和三年度 三校に優秀賞

研究部長 熊田 喜宣

令和三年度の報告

令和三年度研究奨励事業の経過と結果について報告致します。

前年度同様新型コロナウイルス感染症の流行が収束せず、書面での評議員会を開催しての募集開始宣言となりました。

コロナ禍の影響があったのでしうか、九月末の本部締め切り日に寄せられた研究物は、郡山支部からの

団体三件、と近年では少ない部類に入る応募数となりました。

資格審査会において各応募代表者が吾峰会会員であることを確認した後、十月中旬には審査委員の選出と内容審査を初澤敏生人間発達文化学類長にお願い致しました。

学類では、ご多忙中にもかかわらず、教育行政学・学校経営論、授業研究・教

入賞作品・入賞者名

(順序は受付順による)

《優秀賞》

◎新しい谷田川小学校の創造

～新しい生活様式における「働き方改革の推進」と「個に応じた学力向上」の両輪で～

郡山支部 郡山市立谷田川小学校

代表 佐々木 初江

◎「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して

～「TOMIHIGA STANDARD MAP」の

作成をもとに～(2年次)

郡山支部 郡山市立富田東小学校

代表 齋藤 高志

◎「学びを あじわう」

～思いを受け容れ、動き出す学び～

郡山支部 郡山市立芳山小学校

代表 大知里 重政

師論、数学教育・科学教育をそれぞれ専門とする教育実践コースの三名の諸先生を審査委員に選出した上で、丁寧に審査を進めてくださいました。

十二月中旬に、初澤学類長より「三件ともに日頃の実践から積み上げられたもので、内容的には優秀な研究物と評価できるが、一方で課題として残されたものもある。それは、研究設計や提示の仕方であったり、看取りの方法として挙げられた項目が研究の実際にどう結び付いているかが分かりづらかったり、内容と副題とのかかわり、等に見られる。結果、総合的に判断して、三件とも優秀賞が相当であると判断するに至りました。」との報告をいただきました。

この報告を受けて、峯島会長が、「今年度は最優秀賞作品の該当は無く、三件を優秀賞とする。」との決定を致しました。これに伴い表彰式は最優秀賞受賞者を対象(募集要項8)としたものであるため、今回は開催しないことと致しました。

応募研究物に対する詳細な審査結果については、審査委員会から文書での報告をいただいておりますがこ

会員名簿発行係を立ち上げる

組織部長 山寺 精吉

去る六月九日、今年度の第一回組織強化委員会を開催しました。福島県はこの日の新型コロナウイルス感染確認数を一三六人と発表し、福島市は一八八人、前週の同じ曜日を上回る数でした。女子師範学校時代から限畔にあった「葵寮」の跡地に建つ「街なかブランチ舟場」の研修室は、入口のドアと

令和四年度の募集

この稿を書いております五月中旬になってもコロナ感染症の流行は続いており、学校現場のみならずOBの皆様にも大きな影響を与えておるところですが、研究奨励事業は変わらず実施致しますので、奮ってご応募ください。

募集要項及び細則、応募票は各支部事務局にも届けられておりますが、吾峰会ホームページからダウンロードしてのご使用も可能ですのでご活用ください。なお、支部のある地域に在住の方は、支部事務局を経由しての応募にご協力ください。

(昭四一卒 福島支部)

窓を開けて会議を行いました。マスクは外せません。議題の一つは「組織強化に向けた課題と対応」です。事務局として各支部の実情を踏まえた相談活動を積極的に行い具体的な支援に繋いでいくこと。会報「吾峰」を可能な限り多くの会員に配付し同窓意識を高めていくこと。卒業生クラス代表に会員の動向を調査依頼し、住所・所属等を確実に把握すること。同窓吾峰会の目的の一つ「会員相互の親睦を図ること」に貢献できる活動を進めていきます。

二つ目は、「会員名簿刊行に向けたスケジュール」です。会員名簿は前回平成二十六年十二月に同窓吾峰会創立百三十周年記念事業の一つとして刊行され、翌二十七年一月に発送されました。今回は、その十年後にあたる令和六年十二月の刊行を目指します。そのため「会員名簿発行係」を立ち上げ、名簿の名称や規格、構成、発行部数、価格、広告募集などの基本的事項や名簿刊行計画細案の検討を始めています。

第1回会員名簿発行係会開催

- 名称 創立140周年記念版
福島大学人間発達文化学類
同窓吾峰会会員名簿
- 刊行時期 令和6年12月予定
- 配布時期 令和7年1月予定
- 規格 A4判2段組 870ページ
- 詳しくは、計画に従い話し合いを進める
- 賛助金募金や広告募集等協力をお願いする

母校福島大学をはじめ各支部会員及びすべての会員の皆様と共に、前回発行した時の合言葉「座右に会員名簿」と言えるような名簿を今回も編集していきたいと考えます。ご協力をよろしく願います。

(昭五一卒 福島支部)

【図書寄贈紹介】

- 「小島 喜一」様
・福島中国交流史学 No13
・平島松尾顕彰会会報 第15号
- 「志賀伸子⇒吉田弘見」様
・絵本「カミナリおじさん」
・絵本「ぼくは美男子(びだんこ)」
- 「野地みゆき」様
・菜の花小径の向こう側

二〇二三年度 賀寿該当者 長寿 おめでとうございます

今年度の賀寿贈呈該当者は、昭和二年四月〜昭和三年三月末日生まれの方です。

- | | | | | | |
|--|--|--|--|---|--|
| ◎永塚 広吉様
熊田 守様
林 一男様
石井 操一様
松永 則暢様
佐久間 幸良様
田原口 圭様
吉田 正美様
菊田 智様
原 泰子様 | 岩 瀬
郡 山
双 葉
会 津
南 島
福 馬
相 山
郡 達
安 沼
大 沼 | ◎満田 良朔様
◎下山 政清様
遠藤 ミヅイ様
石井 喜美雄様
阿部 貢様
花澤 繁様
鈴木 澄子様
五十嵐 コウ様
五十嵐 睦子様
井本 陽子様 | 郡 山
い 崎
河 沼
福 島
福 島
福 島
郡 山
郡 山
会 津
福 島 | ◎渡辺 トミ様
山 島
島 山
大 竹
三 田
渡 部
佐 久
渡 辺
鈴木 昭
鈴木 一
近 内
花澤 繁 | 福 島
岩 瀬
会 津
郡 山
会 津
郡 山
安 達
い 崎
郡 山
東 白
花澤 繁 |
|--|--|--|--|---|--|

◎は今回紹介された方 ※前年度(昭和二年一月〜三月生まれ) 伝達報告のあった方

◎吉田 絹子様 (郡山)



戦後すぐに高瀬小に奉職以来、郡山市内の大規模校を中心に務めたことと、退職時には小規模校でバス通勤したことなど思い出深く話されました。

◎室井 チトリ様 (南会津)



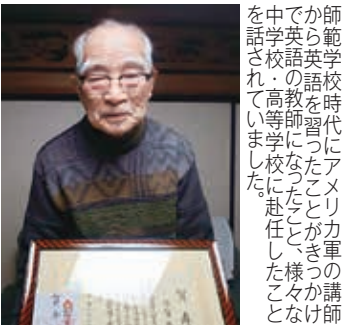
師範学校や教員時代の思い出を話してくださる方が多く、娘さんの援助を受けている。現在は、元気な毎日を送られています。

◎加藤 繁子様 (福島)



耳は遠くなりましたが、大変お元気でした。師範の同窓生も一人二人と亡くなり、交流ができず寂しい思いをしているとのことでした。

※芳賀 英昭様 (田村)



師範学校時代にアメリカ軍の講師から英語を習ったことがきっかけで、中学校・高等学校に赴任したことを話されていました。

※行方 多利十様 (岩瀬)



施設に入所とのことで、ご子息に贈呈させていただきました。コロナでなかなか面会できないが、入所者やスタッフの方と楽しく過ごされているそうです。

※金木 和子様 (福島)



訪問者の私たちを心待ちにしており、現職時代の教育センターや附属小学校時代のことを熱心に説明しておられました。

◎浅沼 恒昭様 (会津)



退職後、区長を務めるなど地区の皆様と交流して、現在は一人暮らしになったが、娘が世話をしてくれているので元気で過ごしているということでした。

◎永塚 広吉様 (岩瀬)



マンションの前庭で野菜を育てるのが楽しみとのことでした。奥様のおかげで仕事を全うできたと、何度も話されていたのが印象的でした。

◎渡辺 トミ様 (福島)



母の岡山小の教員になられたことが、母の思い出の一つで、母の思い出が話されました。今は、読書などを楽しみながらお元気に過ごされています。

◎満田 良朔様 (郡山)



叱ることが多かった自分の教職経験から、目立たない子供も褒めてあげることにかけてほしい、今の若い先生方へ伝えたいとの言葉をいただきました。

◎下山 田政清様 (いわき)



家の都合で跡を継ぎ、農業に従事したため、教壇に立つ期間はわずかだったとのこと。戦時中の苦勞話も話されました。

つながりました

▽一四八号で紹介の林信子様の姪の方が、福島市にお住まいでした。高野 映子さん(昭四一卒、旧姓・林)で、叔母の同期生の久間木 春子様(一四七号掲載)と電話交換ができました。▽本号で紹介の室井チトリ様は、教員になり最初に小学校一年生を担当され、そのクラスに編集子がおりました。電話で話す機会を得ました。人生に感謝!!

一枚の写真から



北海道でSLの写真を撮り続け、愛知県へ帰宅途中、只見線の会津坂下駅でC11の姿に出会いました。今から四八年前の一九七四年(昭和四九年)八月四日の撮影で、廃止間近の写真です。まさか、数年後福島県の大学に行くとは夢にも思いませんでした。高校時代の一コマです。(昭五九卒 愛知支部)

山田 稔



△菜の花小径の向こう側
創る会 野地みゆきさん (昭49卒 いわき支部)
村田恵子さん (昭58卒 いわき支部)
情報提供者：鵜沼秀雅編集委員
(昭45卒 福島支部)



△志賀伸子さんが絵本第3弾発行 (昭37卒 双葉支部)
提供者：吉田弘見双葉支部長 (昭45卒 双葉支部)

仲間たちの「想い」 発信⇔受信

▽絵本「白いにんじん」沢 宏一さんが発行

情報提供者：鵜沼秀雅編集委員

令和二年から新型コロナウイルスが世界中に拡散し、私たちの故郷である福島県においても感染者数の増減が繰り返され、とうとう三年目になってしまいました。この間、吾峰会だけでなくあらゆる人間同士の関わりが大きく変わったように思います。

私は、長く小学校の教員をしていた関係で、子どもと子ども、子どもと教師という「人間同士のつながり」

絵本『白いにんじん』にこめた願い

沢 宏一



こそが大切だと常々思ってきました。しかし、この新型コロナウイルスにより、人と人の距離をとること、人との基本的な対策が叫ばれ、小・中学校等で学ぶ子どもたちの心にとっては、「実に悲しいことだ」と思っていました。

このような中、令和三年に、「子どもたちに何とか夢を持って進んでほしい」「友だちとの関係を大切にしてい

ほしい」と思い、「そのことを絵本で伝えることはできないか」と考えました。絵本等作った経験もなく、絵の表現も素人ですから、毎日悩みながらの制作でした。しかし、令和四年二月に絵本『白いにんじん』をようやく完成することができました。

でき上がったわずかな冊数の絵本は、地元の小学校の図書館といわき市中央図書館、県立図書館に寄贈し、子どもたちに読んでいただけるようお願いしたところでした。この紙面で全ての内容をお伝えすることはできませんが、「気にかけること」を一つのテーマとして、白いにんじんがオレンジ色になっていく様子を表現したものです。

素人の拙い絵本となりましたが、東日本大震災やいわきの大水被害、コロナ禍等、様々な困難の中で私自身が助けていただいたこと等に対する感謝の気持ちの思い出しながら、作成したものです。

仕事を退職し、学校現場を離れてしまった今、これから子ども達に思いを寄せながら、「私にできること」に取り組んでまいります。

(昭五三卒 いわき支部)

番号	支部名	支部長名	副支部長名	事務局	事務局長名	評議員名
21	栗原	小野寺俊幸	佐藤 新一・狩野 浩二	〒989-5171 栗原市金成沢辺町沖200 栗原市教育委員会 教育部学校教育課 ☎ 0228-42-3512 FAX 0228-42-3518	佐藤 一博	小野寺俊幸 狩野 浩二
22	本吉	内海 輝幸	荒川 進・齋藤 一	〒988-0183 宮城県気仙沼市赤岩泥ノ木13-1 ☎ 0226-22-5748	西城 敏幸	内海 輝幸
23	大崎 (旧古川)	井坂 亨	兵藤 正昭	〒987-0003 宮城県遠田郡美里町 南小牛田字石神53 ☎ 0229-32-3492 FAX 0229-32-3492	佐々木勝男	井坂 亨 佐々木勝男
24	山形	堀 泰治	矢口 勲	〒992-1443 山形県米沢市大字笹野1101 山形県立米沢興譲館高等学校 ☎ 0238-38-4741 FAX 0238-38-2531	猪俣 幸一	渡辺 俊三 小野 昭夫
25	千葉	活動休止中				
26	新潟	高橋 信	真柄 正幸	〒954-0056 新潟県見附市南本町1-5-24 ☎ 0258-62-2636	山本 武	高橋 信 山本 武
27	愛知	伊勢呂彰治	齊藤 俊徳・大高 和人	〒491-0903 愛知県一宮市八幡四丁目1-97-708 ☎ 0586-43-7284 FAX 0586-43-7284	山田 稔	伊勢呂彰治 山田 稔
28	岩手県	小野寺 寛	浅沼 清昭・佐々木一郎	〒023-0132 岩手県奥州市水沢区 羽田町字水無沢339 ☎ 0197-24-8095 FAX 0197-24-8095	今野 俊宏	小野寺 寛 今野 俊宏
29	北海道	市澤 豊	菊地 磯夫	〒002-8071 札幌市北区あいの里2条 6丁目3-2-1206 ☎ 011-778-7662 FAX 011-778-7662	帰家 雄治	市澤 豊 帰家 雄治

前安達・西白河・大沼 三支部長に感謝状贈呈

今年度もコロナ禍により、一堂に会しての評議員会は、中止でした。普段ですと席上で、長年支部長の任にあった方に感謝状を贈呈されていたのですが、今回は自宅へ送付されました。それぞれハガキや電話で丁寧なお礼の言葉をいただきました。

☆安達支部 宮前 貢様
☆西白河支部 齋藤邦光様
☆大沼支部 児島昌詮様

便りさまざま

【Eメール】

今年の大雪には大変びっくりもし、難儀もしましたが、少しずつ日差しも強くなってきたような感じがするようになり、もうそれほど雪の心配をせずに済みそうだと考える今日この頃です。本日は会報148号をわざわざお届けいただき恐縮いたしました。いつものように内容が充実していて、懐かしい方々や若い教員の奮戦記など楽しく読ませていただきました。新年度中に会報150号が発行されるようですので、編集等でご苦労も多いでしょうが、もうひと頑張り

よろしく願いたします。先月第2の職場で机を並べながら仕事をしていた同級生の野地清重先生が癌で亡くなられ残念でなりません。小生も健康には十分留意しながら余生を過ごさねばと改めて考えさせられました。

本日は取り急ぎ、これにて失礼をいたします。
令和4年2月15日

千葉金之助（顧問）

いつもお世話になっております。この度は貴誌『吾峰』第148号をご惠贈くださり、誠にありがとうございます。当方のメールを採り上げていただき、恐縮に存じております。

佐藤 常（福島支部）

庭の紅梅がいちどに咲き揃いました。白梅はいつもちよつと遅れるのです。

早速お送りいただいた「吾峰」三部を拝読いたしました。有り難うございます。私のような半ばな老婆を大切にしてくさいます。

しばらく「吾峰」を見ないでいたので、紙面の組み方、編集方針の大変身におどろきました。会員重視・交流の視点が新鮮で、嬉しゅうございました。

菅野智明（筑波大教授）

【ハガキ】

厳しき寒さ、朝から晩迄降り続く。昨日は昨日で三十糶、夜は更に積もる深雪です。

二月十八日に吾峰第一四八号が二冊も届きました。

誠にありがとうございます。御禮申し上げます。P9頁には、佐藤常個展を開くと題して写真二枚も掲載していただきました。私も令和四年五月で九十歳で

す。元気で過ごせる事は、すばらしい事です。身を顧みて、思っております。いつ迄もお世話になり感謝申し上げます。寒さ故にお身大切に。

かしこ
令和四年二月二十一日

庭の紅梅がいちどに咲き揃いました。白梅はいつもちよつと遅れるのです。

早速お送りいただいた「吾峰」三部を拝読いたしました。有り難うございます。私のような半ばな老婆を大切にしてくさいます。

しばらく「吾峰」を見ないでいたので、紙面の組み方、編集方針の大変身におどろきました。会員重視・交流の視点が新鮮で、嬉しゅうございました。

鈴木淑子（福島市在住）

令和4年度 同窓吾峰会支部組織一覽

(令和4年7月報告現在)

番号	支部名	支部長名	副支部長名	事務局	事務局長名	評議員名
1	福島	渋谷 朗	土屋 悦男・高橋 友憲 内藤 良行・福士 久子 丹治 秀樹	〒960-1107 福島市上鳥渡字茶中40 福島市立鳥川小学校 ☎ 024-593-3170 FAX 024-593-0451	島田 祥司	渋谷 朗 土屋 悦男
2	伊達	松浦 常雄	坂内 明生・平久井 淳	〒960-0781 伊達市梁川町字北本町21-1 伊達市立梁川小学校 ☎ 024-577-1124 FAX 024-577-1125	平久井 淳	松浦 常雄 坂内 明生
3	安達	高島 現	菅野真智子・日下部善己 小泉 裕明・大内 雅之 原田 真一	〒964-0904 二本松市郭内一丁目1 二本松市立二本松北小学校 ☎ 0243-23-0029 FAX 0243-23-0012	佐藤 史浩	高島 現 佐藤 史浩
4	郡山	鈴木 隆	大堀 満広・上杉 辰男 佐藤 久子・橋本ゆかり	〒963-0121 郡山市三穂田町川田字柿ノ木55 郡山市立安積第二小学校 ☎ 024-945-9771 FAX 024-945-2137	長瀬 龍男	鈴木 隆 武藤 公夫
5	岩瀬	古田 浩	古川 久枝・渡邊 真二 佐浦 雅明	〒962-0403 須賀川市滑川字東町127 須賀川市立柏城小学校 ☎ 0248-76-5133 FAX 0248-63-8711	善方 威浩	古田 浩 渡邊 真二
6	石川	高原 栄征	蛭田 重経・富岡 高春	〒963-6204 石川郡浅川町浅川字大明塚120 浅川町立浅川中学校 ☎ 0247-36-2023 FAX 0247-36-4779	二平 光明	高原 栄征 二平 光明
7	田村	村上 和寛	山口 洋一・先崎 裕文 佐久間光春	〒963-7759 田村郡三春町字大町157 三春町立三春小学校 ☎ 0247-62-3101 FAX 0247-62-3106	箭内 良一	村上 和寛 箭内 良一
8	西白河	北林 正紀	野口意千朗・佐藤 正弘	〒961-0914 白河市寺小路64-2 白河市立白河第三小学校 ☎ 0248-23-3243 FAX 0248-24-0296	室井 博人	北林 正紀 野口意千朗
9	東白川	奥貫 洋	山口 彌代・永山 美雄 鈴木 雅人	〒963-5341 東白川郡塙町台宿字下川原5 塙町立塙小学校 ☎ 0247-43-0066 FAX 0247-43-0099	矢吹 政徳	奥貫 洋 矢吹 政徳
10	会津	目黒 則雄	阿部 重孝・岩沢 隆 穴澤 眞澄・橋本千賀子 山岸 実	〒965-0875 会津若松市米代一丁目5-33 会津若松市立謹教小学校 ☎ 0242-28-2100 FAX 0242-29-3405	大越 辰哉	目黒 則雄 大越 辰哉
11	耶麻	大堀 浄一	青山 邦夫・矢部 有一	〒966-0806 喜多方市水上6868 喜多方市立第一小学校 ☎ 0241-22-2103 FAX 0241-23-1673	大堀 浄一	大堀 浄一 青山 邦夫
12	大沼	石井 幸雄	佐藤 信寛・北舘 長一	〒969-6214 大沼郡会津美里町富川字上中川161-1 会津美里町立宮川小学校 ☎ 0242-54-2222 FAX 0242-54-2277	星 潔	石井 幸雄 佐藤 信寛
13	河沼	新井田明義	山内 聖子・小林 政昭	〒969-6553 河沼郡会津坂下町字石田甲650 会津坂下町立坂下南小学校 ☎ 0242-83-2046 FAX 0242-83-0966	眞部 弘之	新井田明義 山内 聖子
14	南会津	五十嵐利明	山本 恭士・大竹 成子	〒967-0004 南会津町田島字会下甲3316 南会津町立田島小学校 ☎ 0241-62-0042 FAX 0241-62-3220	栗木 孝直	五十嵐利明 山本 恭士
15	いわき	金内 三郎	笹川 直樹・沢 宏一 団野 勝一・小野 則夫	〒970-8026 いわき市平作町3丁目4-2 いわき市立平第三小学校 ☎ 0246-22-1021 FAX 0246-22-1022	平子 宗司	金内 三郎 平子 宗司
16	相馬	島 義一	草野 正徳・飯塚 宏	〒976-0042 相馬市中村字大手先1 相馬市立中村第一小学校 ☎ 0244-35-3168 FAX 0244-36-8644	渡邊 義人	島 義一 渡邊 義人
17	双葉	吉田 弘見	紺野 廣光・笠井 淳一 馬場 隆一	〒963-8025 郡山市桑野5丁目11-18 (臨時事務局 鈴木事務局長宅) ☎ 090-7063-3587 FAX 024-954-4481	鈴木 孝彦	吉田 弘見 鈴木 孝彦
18	東京	島貫 金雄	荒木 俊夫	〒185-0014 東京都国分寺市東恋ヶ窪2-31-21 ☎ 042-321-2277	島貫 金雄	島貫 金雄 荒木 俊夫
19	仙台	結城 正芳	伊藤 宗男・熊谷 和彦 吉田 利弘	〒980-0004 仙台市青葉区宮町1丁目2-1 仙台市立東六番丁小学校 ☎ 022-222-4216 FAX 022-714-8609	千葉 慎一	結城 正芳
20	大河原	鈴木登志彦	大沼 章・森 貢喜 佐藤 俊憲・日下 嘉充	〒989-1758 柴田郡柴田町槻木駅西2丁目7-15 ☎ 090-7073-3794 FAX 0224-87-6626	鈴木 哲也	鈴木登志彦 鈴木 哲也

吾峰人のお名前

見ました
聞きました I

(敬称略) ⑤…新聞、⑥…テレビ、⑦…その他

① 小野 寺 寛

② 小野 恭 雪

③ 柴 崎 茂

④ 藤 東 ヨシ

⑤ 門 馬 崇 文

⑥ 目 黒 満

⑦ 和 合 亮 一

⑧ 鈴 木 淑 子



藤東ヨシさん
福島民友新聞



中谷仁絵さん
福島民友新聞



山岸 実校長
TVローカルニュース



金子秀則校長
TVローカルニュース



武内雅之校長
TVローカルニュース



佐藤由弘校長
TVローカルニュース

①「24随想『好日雑想』」太宰文学の魅力／斎藤宗次郎の実像／他
⑤新聞投稿「パソコン技術の進歩に驚き」戦争終結の難しさに気付く／他数回
⑤朝日川柳欄「苦いアメそれも恣意的民の税」

⑤「梁川ざつと昔の会」会長／民話と師匠の情熱継承／藤東さん福島市に本寄贈 受け手古閑明善福島市教育長
⑤「心から誇りに思う」／南相馬出身トレーナー門馬さん／スピードスケート日本代表

①「コロナ禍の教育現場」／「分散」オンライン」密回避で安心授業／信陵中学校長談話 P⑤関連

⑤県立博物館対談「写真の力／言葉の力」／写真、言葉にない何か補充／他数回「ふるさと」は夕暮れ福島だより」No.58／No.59連載⑤「和合さん、国際芸術祭出品へ」／5000行超詩制作／「福島島の姿発信したい」／⑤「須賀川創英館高校歌作詞」川俣小学校校歌作詞
⑤「みんなゆえ随想」歌は世につれ／名前も世につれ「世相」は『世代』の母「プーチンの涙」他数回 P⑩関連

⑨ 生島 浩 幸

⑪ 中 谷 仁 絵

⑫ 中 村 洋 介

⑬ 山 岸 実 伸 一

⑭ 青 田 伸 一

⑮ 伊 藤 勝 宏

⑯ 金 子 秀 則

⑰ 武 内 雅 之

⑱ 佐 藤 由 弘

⑲ 中 條 結 子

⑳ 志 賀 伸 子

⑤「生島教授が最終講義」／福島大／震災11年帰還市町村首長に聞く新しい村の風土つくる」／川内村長「村産ワイン生かし観光の復興を」

⑤「震災11年風化立ち向かう 若い力」県追悼記念式 傷ついたピアノ 優しい音」／福島大・中谷さん 夢は先生／大震災6強の特徴について／談話
①「ほとんどの小学校で卒業式」式辞
①「地震で被災した小学校で卒業式」式辞 P④⑤関連

①「春の選抜初出場の知らせ」只見高校長 P⑩関連

①「白河の小学校で閉校式」式辞
①「避難先で最後の卒業式」式辞
①「大熊町に『学び含めめの森』開校」談話
①「コロナ禍の人間模様」福大入学式／新入生不安と期待／インタビュー返答
⑤「3作目の絵本を志賀さんが出版」／浪江の元中学教師「小さな声」耳傾けて／3冊目の絵本『ぼくは美男子(びだんこ)』出版 P⑨関連

⑤「双葉郡の教育復興連携」／福島大と地区教育長会協定締結式
⑤「震災12年目 語り部育成『虎の巻』富岡のNPO、作成着手」／高齢化「私たちがいなくなったなら誰が代表として談話争」／76年目の記憶語り継ぐ／ふくしまの戦争」／大連から引き揚げ父と離れ祖国目指す

⑲ 故 若 松 丈 太 郎

⑳ 中 村 洋 平

㉑ 伊 藤 末 吉

㉒ 有 賀 仁 一

㉓ 伏 見 俊 哉

㉔ 鳴 原 理

㉕ 沢 宏 一

㉖ 長 沢 文 治

㉗ 浅 野 京 子

㉘ 三 木 剛

㉙ 佐 藤 剛

⑤「夷俘の叛逆 詩集が文学大賞受賞」脱原発社会をめざす文学者の会」文学大賞
⑤「50周年記念号を発行」／国見町郷土史研究会代表としてあいさつ・談話
⑤「伊藤会長を再任」／二本松文化団体連絡協「創立50周年で記念誌」発行
⑤「BOOKカフェ」光とともに／自閉症児を抱えて「互いを認め合う社会へ」図書推薦文
①「伏見珈琲店が駅前から曾根田駅舎へ」令和四年度福島市小学校鼓笛パレード」／多くの学校が校歌を選挙で談話
②「絵本『白いにんじん』」を出版 P⑨関連

⑤「川俣の小中学校校歌を冊子に」／閉校含め全20校掲載・編集「母校に誇りを」新聞投稿「統合小学校心に残る歴史を」
⑤「第76回県展受賞者」◇洋画の部▽県美術賞・県美術大賞候補・齋藤清賞・テレビユー福島社長賞 P⑩関連
⑤「二本松市議選 最年少トップ当選」
⑤「第70回県文化功労賞」／県演劇団体連絡会長として／田村 学(本名・佐藤 勲)「田村さんが感謝の言葉」／受賞を祝う会
①「小学校におけるタブレット授業」談話
①「福島県内のタブレット授業」談話

①「教育がテーマの討論会参加募る」／福島大学院研究科／⑤1／24参加呼びかけ人森本明教授



前頁より
嶋原 理さん
TVローカルニュース



小林 勇二教諭
TVローカルニュース

- 15 「新型コロナウイルス対策に移行」卒業式間近中学校
- 14 「旗野礼子山上小学校長」
- 13 「伝統野菜・相馬土垂」広める「県地産地消コン山上小(相馬)優秀賞」児童が栽培、メニュー作り「S談話」
- 12 「七見君が最優秀作品」北海道・東北ありがとうの手紙「伝達」根本秀一みさか小学校長
- 11 「県税の絵はがき」審査員・内藤良行特任教諭
- 10 「福島県PTA連合会主催「災害事故防止習字・ポストカード」作品展」審査員・鈴木幸子、丹治英郎、庄司久子
- 9 「江戸時代の村騒動解説」信夫地区史跡保存会が講演会「講師・小松賢司准教授
- 8 「優秀教職員表彰 大熊町長に報告」報告者・佐藤由弘熊町小・大野小・大熊中学校長、同席者・木村政文教育長、増子啓信主幹・指導主事
- 7 「福島大附小が優秀論文」ソニー科学教育プログラムの研究者代表佐久間響子教諭、理科主任植木忠佑教諭が談話
- 6 「佐方さんら4人最優秀」三河台青少年育成標語・表彰式「同席者・山本巖三河台小学校長
- 5 「菜の花小径の向こう側」創作小冊子編集・執筆・発行「野地みゆきさん、村田恵子さん」P7⑨関連
- 4 「只見 春が来た」15人、豪雪超えて甲子園」「力もらった」地域の支え「出場決定の電話を受けた伊藤勝宏只見高校長」P①関連
- 3 「教育施設建設 安全祈る」大熊、来年2月完成目指す「くわ入れ、あいさつ 木村政文町教育長
- 2 「本宮一中卒業生が母校に15万円寄付」目録を受ける佐藤健夫校長



中條結子さん
TVローカルニュース



田村 学さん
福島民友新聞

- 16 「大平小と小浜中の児童生徒に読書賞」二本松市教委が伝達「伝達者・丹野学教育長、同席者・伊藤比呂美大平小学校長、高橋一彦小浜中学校長
- 17 「過去の自分が今の力優秀賞八木沼さん(福島大附)東北電中中学生作文表彰式」同席・菅野重徳副校長
- 18 「活躍誓い未来へ羽ばたく」小学校で卒業式「卒業証書手渡しと式辞」佐藤秀美福島第三小学校長、堀部誠保原小学校長、佐藤則之二本松南小学校長、穂山俊之本宮小学校長、丹伊田伸哉川俣・飯坂小学校長。
- 19 「退職校長に辞令交付」辞令と感謝状を佐藤浩哉福島第一中学校長らへ。謝辞・加藤知道橋高校長。あいさつ・佐藤秀美福島第三小学校長
- 20 「閉校東湯野小に別れ147年の歴史振り返る」児童が思い出、歌を披露「挨拶と校旗返納者・瀬戸和子校長、受納者・古関明善教育長
- 21 「母校の思い出永遠に」川俣南、飯坂、福田、富田小閉校式「校旗受納者・佐久間裕晴町教育長
- 22 「母校の心引き継いで」保原高定時制の閉課程式「式辞・高橋文彦校長
- 23 「地域の発展へ決意」辞令交付式「交付者・丹野学二本松市教育長、佐久間裕晴川俣町教育長
- 24 「特別支援学校長に朝賀氏」福島大「人事異動」副学長・教育・学生担当等・谷雅泰、副学長補佐・教育・学生担当・岡田努、人文社会学群長・初澤敏生、教職課程センター長・杉田政夫、附属特別支援学校校長朝賀俊彦、教育研究評議会評議員・井実充史、小川宏人、以下略 P⑮関連



遠藤春光校長、丹野 学教育長
福島民友新聞



横山貴英校長
福島民報新聞

- 25 「18歳新成人、新生活スタート」福島大1125人が入学式「インタビューに談話・金野太樹 P⑮関連
- 26 「学び舎ゆめの森」開校」大熊の義務教育学校に8人「校旗受納者・佐藤由弘校長
- 27 「三浦学長「教育の向上・強化」」福島大、新役員が就任会見「会見者・三浦浩喜学長、谷雅泰副学長
- 28 「川俣小」新たなスタート」各校の伝統引き継ぐ「開校式で新校歌披露目録」開校宣言・佐久間裕晴川俣町教育長、あいさつ・小野真教校長、校歌作詞者・和合亮一
- 29 「最後の入学式 温かい歓迎」閉校予定の石田小「歓迎の言葉・本田一意校長
- 30 「希望膨らむ新生活」高校など入学式「式辞・保原高橋文彦校長、安達高伊藤勝宏校長、安達東高斎藤靖校長
- 31 「石井小が2年連続実践論文最優秀賞」表彰授与者・丹野学教育長、同席者・遠藤春光校長
- 32 「図書整備費に5万円 保原RCが保原小に」席者・佐々木透校長
- 33 「県小学校長会 新会長に横山氏(福島二)」会長・横山貴英、副会長・丹治秀樹、小林義弘、事務局長・佐藤浩昭
- 34 「県中学校長会役員」副会長・阿部央、芳賀俊幸
- 35 「県町村教育長協議会役員改選」幹事・笠井淳一
- 36 「県都市教育長協議会役員改選」監事・小野義明、古関明善
- 37 「県中学校教育研究会役員改選」副会長・石綿厚、松本仁志、事務局長・高沢正男

「吾峰人のお名前見ました聞きました」はP⑮に掲載しました

令和4年度 同窓吾峰会本部役員名簿

役職名	氏 名
顧問	服 部 秀 文
	齋 藤 正 寛
	千 葉 金之助
	初 澤 敏 生
会 長	峯 島 和 彦
副 会 長	鈴 木 隆
	目 黒 則 雄
	吉 田 弘 見
監 事	松 坂 知代子
	大 堀 満 広
常任理事	野 崎 修 司
	関 場 弘 子
	我 彦 武
	山 寺 精 吉
	熊 田 喜 宣
	平 野 哲 哉
	川 崎 康 宏
	関 口 史 子
	山 縣 眞 二
理 事	菅 野 諭
	菅 野 和 昶
	大 竹 明
	飯 沼 信 一
	鈴 木 昭 雄
	根 本 眞
	鶴 巻 正 子
	内 藤 良 行
	佐 藤 和 彦
	古 関 明 善
	塚 野 薫
	佐々木 義 通
	佐 藤 秀 美
	佐 藤 浩 哉
	横 山 貴 英
	目 黒 満
	塩 田 俊 郎
	菅 野 重 徳
幹 事	持 地 隆 一
	勝 見 五 月
	茂 木 巧
	二 谷 京 子
	佐 藤 秀 雄
事 務 員	梅 津 浩 子

総 務 部

役職名	氏 名
部 長	野 崎 修 司
副 部 長	関 場 弘 子
会 長	峯 島 和 彦
部 員	我 彦 武
	山 寺 精 吉
	熊 田 喜 宣
	平 野 哲 哉
	川 崎 康 宏
	関 口 史 子
	梅 津 浩 子

会 計 部

役職名	氏 名
部 長	我 彦 武
副 部 長	勝 見 五 月
部 員	二 谷 京 子

組織部 組織強化委員会

役職名	氏 名
委 員 長	山 寺 精 吉
副委員長	鈴 木 昭 雄
委 員	熊 田 喜 宣
	我 彦 武
	菅 野 和 昶
	斎 藤 義 弘
担当幹事	持 地 隆 一

研 究 部

役職名	氏 名
部 長	熊 田 喜 宣
副 部 長	内 藤 良 行
担当幹事	茂 木 巧

広報部 会報編集委員会

役職名	氏 名
委 員 長	平 野 哲 哉
副委員長	持 地 隆 一
委 員	鶴 沼 秀 雅
	伊 藤 きみ子
	寺 岡 弘 之
	内 藤 百合子
	佐 藤 秀 雄

広報部 ホームページ委員会

役職名	氏 名
委 員 長	川 崎 康 宏
副委員長	馬 場 秀 之
委 員	菅 野 諭
担当幹事	茂 木 巧

積立金管理運営委員会

役職名	氏 名
委 員 長	関 口 史 子
副委員長	菅 野 諭
	会長・事務局長 事務局次長

ウィズコロナ!! 懇親会は実施せず・参加人数を制限して

本年度の「会津若松大会実施予定」を
打合会で確認!!

～10月15日(土) 会津ワシントンホテル・講演会講師は写真家の星 賢孝氏～

会報「吾峰」へのご応募は
下記でも受け付けています。広報部長・会報編集委員長 平野 哲哉
〒960-0112
福島県福島市南矢野目字原下9-19
電 話 024-553-6385
携 帯 090-4041-4389

〈事務局への連絡方法〉

電話の場合 下記の電話番号へ

- ・曜日 (火、水、木、金)
- ・時間 (A.M.10:00～P.M.4:00)
- ・事務担当者 (梅津 浩子)

* 曜日や時間が振替の時もあります。

Fax、E-Mailの場合 常時・右記へ

会報「吾峰」の原稿や作品等の送り先

宛先・連絡先

福島大学人間発達文化学類
同窓吾峰会
〒960-8103 福島市舟場町4-30
福島大学街なかランチ舟場
電 話 024-529-7081
FAX 024-529-7082
Eメール gohou@ktd.biglobe.ne.jp

母校 福島大学・人間発達文化学類だより

令和4年度 福大の主な役職人事異動

(敬称略)

- ▽学 長 三浦浩喜
- ▽理事・副学長 塩谷弘康、佐野孝治
- ▽理 事 鈴木廣明、濱津さとみ
- ▽副学長・教育推進機構長 谷 雅泰
- ▽副 学 長 田中 明、新田洋司
- ▽理事・事務局長 内藤雷太
- ▽監 事 上井喜彦、橋本潤子
- ▽保健管理センター所長 片山規央

- ▽教職課程センター長 杉田政夫
- ▽地域未来デザインセンター長 鈴木典夫
- ▽環境放射能研究所長 難波謙二
- ▽人文社会学群長 初澤敏生
- ▽人間発達文化学類長 初澤敏生
- ▽行政政策学類長 垣見隆禎
- ▽経済経営学類長 末吉健治
- ▽理工学群長 長橋良隆
- ▽共生システム理工学類長 長橋良隆
- ▽農学群長 生源寺眞一

- ▽食農学類長 生源寺眞一
- ▽基盤教育主幹 小野原雅夫
- ▽附属幼稚園長 千葉桂子
- ▽附属小学校長 佐藤佐敏
- ▽附属中学校長 横島 浩
- ▽附属特別支援学校長 朝賀俊彦
- ▽教育研究評議会評議員 井實充史、小川 宏

18歳新成人、新生活スタート

福島大 1125人が入学式 P13関連

人間発達文化学類一年の金野太樹さん(18)は「成人年齢の引き下げで、メリット、デメリットがあると思うが、自分で判断することが増えて怖い」と心配する。

(朝日新聞地方版)

令和3年度 福島大学人間発達文化学類 卒業生クラス代表一覧

クラス名	氏名
学 習 支 援	緑 川 大二郎
教 育 探 究	柳 沼 七 瀬
人 間 科 学	藤 内 大 樹
特 別 支 援	根 本 華 帆
子 育 て 支 援	佐々木 ひかり
言語文化 (国 語)	高 田 明日香
言語文化 (英 語)	小河原 大 樹
地域生活文化 (社会)	吉 田 凜 太郎
地域生活文化 (家庭)	鈴 木 彩 加
数 理 科 学	安 藤 菜々子
ス ポ ー ツ 探 究	積 田 連
生 涯 ス ポ ー ツ	小野崎 聖 奈
芸術文化 (音 楽)	佐々木 彩 加
芸術文化 (美 術)	佐 藤 友 美

令和3年度 学生表彰者

(敬称略)

団体の部

- *混声合唱団
- *陸上競技部男子
- *陸上競技部女子

個人の部

- *スポーツの分野
・長正 憲武
(トライアスロン)
- ・岸 聡子
(バスケットボール)
- ・小橋 圭太、
杉山沙巴羅、

*文化、芸術の分野

- ・田村 大悟、
中谷 仁絵
(ピアノ)
- *優れた学業成績
・人間発達文化学類
高田明日香



入学式に臨む新入生たち

あれから十二年め!!

震災遺構の請戸小学校 津波被害の惨状を公開

副会長・双葉支部長

吉田 弘 見

◎凄まじい破壊力

中に入ると、剥がれ落ちた壁や天井、露出した配線やねじ曲がった配管、いびつに折れ曲がった窓枠など、教室の原形をとどめない惨状が眼前に広がります。また、泥にまみれた机や瓦礫、そして照明器具や清掃用具などの備品が荒れた床に散乱しています。高さ十五・五メートルの津波の凄まじい破壊力に圧倒され、恐怖感さえ覚えます。

◎奇跡の犠牲者ゼロ

開されました。オープン後四十一日で、来訪者が一万人に達したそうです。

前代未聞の巨大津波でしたが、全校生九十八名（一年生十一名は帰宅後）が一人の犠牲者も出さずに避難できたことは、当時の校長先生はじめ先生方の卓越した危機管理による的確な判断のたまものと感心するばかりです。

請戸小学校は海岸から三百メートルの平坦地にあります、避難場所の大平山は学校から西へ約二キロメートルも走らなければならなかったとか。津波は、全児童が山へ上った直後に麓まで押し寄せていますから、全員無事は正に奇跡といえます。多数の犠牲者を出した宮城県の小学校の例もあるので、迅速に、より遠く、より高く避難したことは大いに評価されます。

◎避難を描いた絵本

絵本『請戸小学校物語 大平山をこえて』（第一印刷）



が発刊されていて、校舎の見学ルートのあちこちに、この絵本の絵も使って説明してあります。この絵本が多くくの国民に読まれ、いずれ遭遇するであろういろいろな災害に備える教訓にしてほしいものです。

◎一見の価値あり

吾峰会の会員は、ほとんどが現職教員か元教員ですから、避難訓練は何十回も経験済みです。しかし、実体験は少ないと思います。ここを訪れると、危機管理の重要性を痛感します。私は、この震災遺構が防災教育や安全教育に役立ってほしいと願っています。

それで、学校教育活動の一環として、児童生徒の見学地とすることを推奨します。また、震災の記憶を後世に伝えるためにも、会員の皆様に、ぜひ一度訪れることをお勧めします。

(昭四五卒 双葉支部)

吾峰人のお名前

見ました
聞きましたⅡ

編集後記

(敬称略) ◎…新聞、①…テレビ、②…その他

③⑦ 吉田真希子

◎「東邦銀監督に吉田氏」～審判上部、川本前監督の教え子～

③⑧ 「スポーツ好きを増やしたい」～⑤田母神さん郡山市教育長訪問～小野義明郡山市教育長

③⑨ 「私の家族作文コン」審査員◎岩見豊一元薫小学校長

④⑩ 「第76回県総合美術展覧会」◇洋画の部 浅野京子(前)

述)▽県美術奨励賞・県文化スポーツ局長賞◎長久保

智子▽青少年美術奨励賞・県教育長賞◎熊耳多恵(福

島大)◇工芸美術の部▽県美術奨励賞・県文化センター

館長賞◎二瓶 亨

④⑪ 「川俣小学校歌 高らかに」～感謝の思い込め披露式～⑤

挨拶佐久間裕晴町教育長、作詞和合亮一

④⑫ 「東北陸上出場選手激励」同席高橋文彦保原高校長

「安達高テニス部へ激励金」同席伊藤勝宏校長◎⑤

④⑬ 「立子山 中 75年

の歴史に 幕」～挨拶

④⑭ 校旗 受納◎福

島 市教 育長 古関

明善

④⑮ 「月輪小

に「人権

の花」贈

る」～挨拶

④⑯ 校 長 蓬田 孝

夫



県美術賞・県美術大賞候補 浅野京子さん「夏の終わりに」

福島民報

慎んでお悔やみ申し上げます

●故片寄 秀雄様 元本部副会長、元いわき支部長
●故川本 和久様 福島大学人間発達文化学類教授



「癒しのアヤメ園ー四季の郷ー」撮影6月 緑水苑

△柳沼秀雄前副会長さんから量の中伺いと激励の八ガキ(アヤメ園の写真入)を頂きました。写真のみ紹介